

## FD 学外セミナー参加報告書

氏名： 前田多章

所属/職名： 知能情報学部

参加セミナー名： 反転授業がもたらす学生主体のアクティブな対面授業

セミナー参加日時/場所： 2014年9月24日 13:00-17:00 (-21:00 情報交換会)

/山梨大学工業会館

### ■セミナー内容・所感・授業や本学への活用について

#### 1. 内容

山梨大学では、ICT 技術を駆使して反転授業を取り入れることで授業中に余剰時間を生み出し、そこにアクティブ・ラーニングを取り入れて教育効果をあげることに取り組んでいる。これまで行ってきた工学部専門科目における試行では、学習時間の増加と成績の向上が確認できている一方、アクティブ・ラーニング本来の目的である「学生自身がビジョンを持ち、主体的に学べるようになる能力」を身につけさせるためには、どのような授業設計が必要なのかが重要な検討課題となっている。本公開研究会では、基調講演や学内外における実践報告を通して広く情報交換を行ない、今後の授業設計のあり方を考えるものである。

#### 2. 所感

これまでアクティブ・ラーニングを取り入れた講義を開講してきたが、2014 年度から、一部、反転授業を取り入れ、その効果を実感している。本セミナーにおける教育実践報告、ワークショップおよび情報交換により、反転授業におけるいくつかの重要な構成要素が確認できるとともに、大学規模として反転授業を取り入れる際の問題点について意見交換ができ、大変有意義であった。また、他の参加者との今後の連携の機会を得ることもできた。

特に、反転授業の事前学習のもっとも大きな効果は「予習の必須化」であるが、この効果に関する多くの報告が行われるとともに、同時に学生の負担増（本来なら当然であるが）があることも議論された。現行のカリキュラムで全学的反転授業を構想した場合、この学生負担が物理的に不可能であり、反転授業の採用科目の厳選や、カリキュラムの見直し（講義自体の厳選）が必要であるとの意見がでた。

#### 3. 授業での活用

本セミナーで得られた知見を元に、担当科目における反転授業で用いる事前学習用教材の改善を進める。さらに、他の参加者と連携して、反転授業の効果の横断的および縦断的調査を行う計画である。